

# 豊かな心で意欲的につづる子どもを育てる学習指導方法の研究

- 日記を読み合う学習を通して -

鹿島市立能古見小学校 教諭 大川内 加代子

## 要 旨

本研究は、豊かな心で意欲的につづる子どもを育成するための日記指導の在り方を明らかにしたものである。日記の書き方が分かり意欲的につづるために、学習過程に日記の読み合いを取り入れた。

指導の手立てとしては、日記を読んだ後、共通体験を話し合ったり、日記の表現の良さとつづられている内容の良さについて話し合ったりして、共感的に読む態度の育成を目指した。また、自分の書いたものが認めてもらえた充実感を味わわせ、「さらにこう書けば良い」と、書きぶりを学ぶ中で、意欲的な書き手になるように指導した。その結果、心の通い合うコミュニケーションが取れるようになり、豊かな心で意欲的につづるようになった。

<キーワード> 日記指導 読み合い 共感的に読む態度 意欲的な書き手

## 1 主題設定の理由

表現をするということは、人間の重要な基本的欲求の一つである。今回の新学習指導要領の改訂では自分の考えを自分の言葉で積極的に表現する能力や態度を重視して「表現する能力」の育成が目標の最初に位置付けられている。表現には様々な方法があるが、とりわけ、自分の思いを書いて表現することは重要である。子どもが自分の思いや行動を生き生きと書く力を持ち、豊かな内容をつづることのできる力をもつようにすることが、国語科の指導の中でも大切だと考える。

子どもたちがつづった日記を読むと今まで知らなかった子どもの一面を発見することが度々ある。日記から子どもの優しさやたくましさ、悲しみ、辛さ、怒り等、子どもの思いを読み取ることができる。それらの思いを教師だけが読み取るのではなく、日記を読み合う学習を取り入れることによって、友達を思いやる豊かな心を育て、さらに、感動を共有することで、友達と心を通い合わせようとする子どもが育つであろうし、文字言語によって伝え合うことの良さを味わうことができるであろうと考える。また、表現の方法や題材の取り上げ方を学ぶことにより、意欲的につづる子どもが育成できるのではないかと考える。

そこで、本研究では、日記指導の中に日記を読み合う学習を取り入れることで、友達の文章表現と内容の良さを認め合い、心と心をつなぎ合うことができる子どもや表現したことで得る喜びを知り、意欲をもって書く子どもが育つのではないかと考え、本主題を設定した。

## 2 研究の目標

豊かな心で意欲的につづる日記指導の在り方を明らかにする。

## 3 研究の仮説

子どもが日記を書き、そこにつづられた、友達の良さについて読み合う学習を意図的、継続的に設けていけば、自分の思いを意欲的につづる子どもが育つであろう。

## 4 研究の内容と方法

### (1) 日記指導についての理論研究

ア 児童の日記に関する実態調査の実施及び分析

イ 日記指導に関する文献の研究

### (2) 仮説検証のための授業実践及びその分析と考察

5 研究の実際

(1) 日記指導の必要性

菅原稔は、「書くことの指導は、大きく、自分の考えを深め確かにすることに力点を置く自己表現と、文字言語による通じ合いに力点を置く社会的表現の二つを目指して行われる。」<sup>(1)</sup>と述べている。本研究での日記指導は、この2つの表現を目指して行うことができると思う。また、書くという表現の中でも日記という日常的な表現を基にして指導に取り組めば、子どもたちに書くことの喜びや書けることの楽しさを味わわせることができると考える。

(2) 日記の読み合いの目的

日記を書いて読み合うことで双方向の交流を経験させることにより、書くことの意義を実感し、言葉で伝え合うことの大切さを再認識することができる。また、日記の読み合いは、学級の中で、日記に書かれた友達の心のゆれや生き方について語り合う時間と空間を共有することである。これにより、子どもたちは、互いの存在の重みを感じ、自分がここにいることの値打ちを見いだすことができるであろう。

(3) 日記の読み合いの学習過程

書く 読む 話し合うという学習過程を1サイクルとし、「書く力」を螺旋的かつ意図的に高めていく。友達の作品(日記)を読み、その表現の良さと物の見方・考え方の良さについて話し合い、それを活かして次の作品(日記)を書く。読み合う際は、共通体験を話し合い、共感し合う。また、内容の良さや表現の良さを見付け出し、それを話し合わせる。これにより、書き方を学び、ものの見方・考え方を深める。それとともに、書ける喜び、認められる喜びを味わい、意欲的につづる子どもが育つと考える。

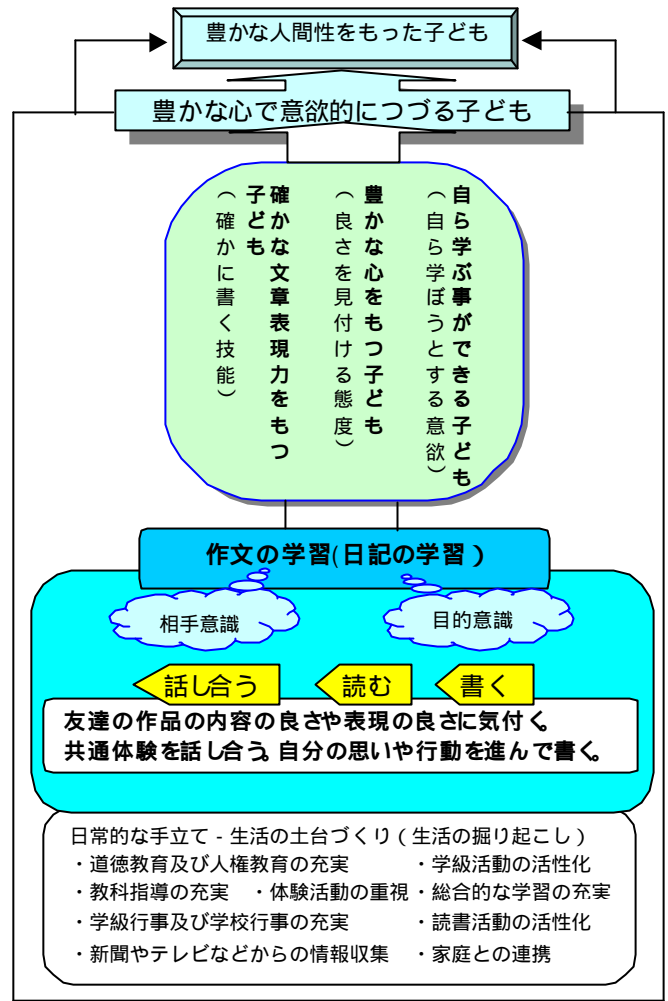


図1 研究の全体構想図

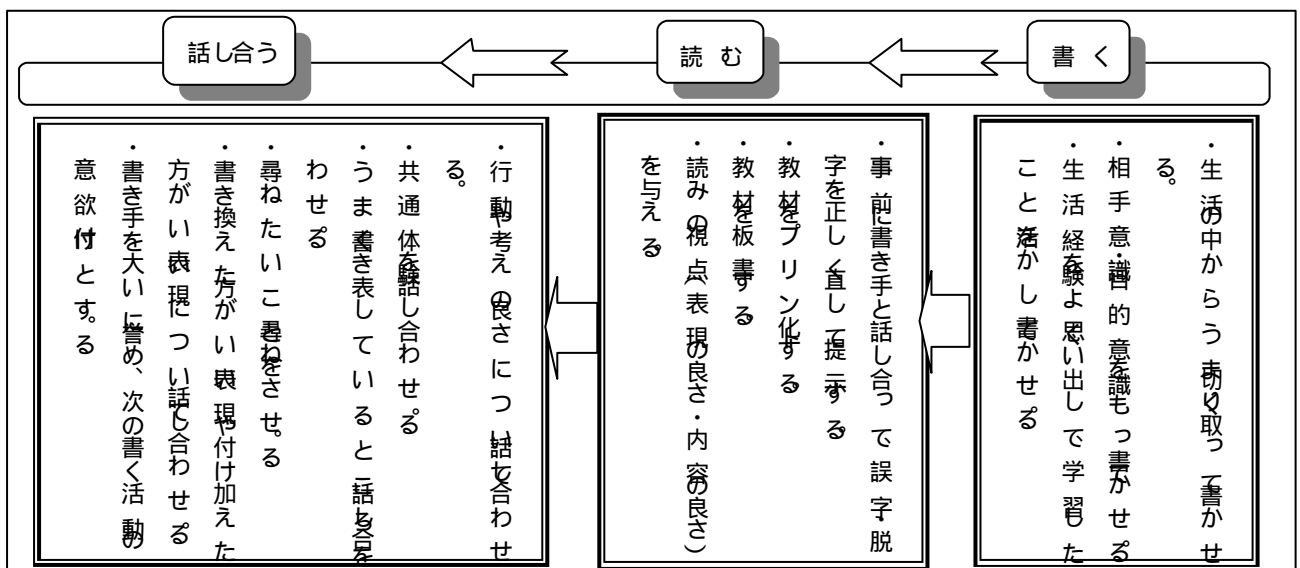


図2 日記の読み合いの学習課程

(4) 目標並びに指導事項

意欲・態度・技能の3つの観点に分けて目標並びに指導事項を表1に示す。

表1 目標並びに指導事項

年	意欲目標	態度目標	文章表現の指導事項
1・2	喜んで書く 文章行整制せず自由書く。 絵や吹き出しなど入れ楽しく書く。	できる 友達良いところ見付け、進んで発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手や目的を考えながら書く。</li> <li>思ったこと、考えたことを書く。</li> <li>書こうとする題材に必要な事柄を集めて書く。</li> <li>自分の考えが明確になるように、簡単な組立てを考える。</li> <li>事柄の順序を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して書く。</li> <li>文章を読み返し、間違いなどに注意して書く。</li> <li>長音、拗音、促音、撥音などの表記が正しくできる。</li> <li>助詞「は」「へ」「を」を文の中で正しく使える。</li> <li>句読点の打ち方やかぎ「」の使い方を理解して文章の中で使える。</li> <li>主語と述語との関係に注意して書く。</li> </ul>
3・4	進んで書く 短時間ことや男ことだけではな 三日わたること比較的に経験者丹 念に書く。	できる 友達良さに学ぶ共に、自分の体験発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手や目的に応じて、適切に書く。</li> <li>書く必要のある事柄を収集したり選択したりして書く。</li> <li>自分の考えが明確になるように、段落相互の関係を考える。</li> <li>書こうとする事柄の中心を明確にしなが、段落と段落との続き方に注意して書く。</li> <li>文章の良いところを見付けたり、間違いなどを正したりする。</li> <li>書き出しと終末の文を工夫して書く。</li> <li>句読点を適切に打ち、必要な箇所は行を改めて書く。</li> <li>修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつ。</li> <li>文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使う。</li> <li>敬体と常体との違いに注意しながら書く。</li> </ul>
5・6	考えながら書く 者の体験を多岐わたった題材で総合的に書く。	できる 友達良さを奪び取り、自分感じたこと知識情報も関連付ながら発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書く。</li> <li>筋道を立てて書く。</li> <li>全体を見通して、書く必要のある事柄を整理する。</li> <li>自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考える。</li> <li>文章を読み返し、間違いなどに注意して書ける。</li> <li>終わりの文を工夫して書く。</li> <li>事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする。</li> <li>比喩法を使って書く。</li> <li>擬人法を使って書く。</li> </ul>

(5) 検証授業の実際 (2001年11月～12月実施、全7時間、能古見小学校3年1組25名対象)

ア 単元名 「友達の日記の良さを見つけて、自分の日記にいかそう」

イ 日記の読み合いの流れ

作者が書いた生活について話し合い、ものの見方・考え方、行動の仕方について意見を出し合い、良さを見付けていく。

共通体験を出し合い、作者に共感したり、物の見方・考え方を広げたりする。

日記の優れている表現について話し合い、書き表し方を学ぶ。

もっとくわしく知りたいことを出し合い、書き手と一緒に表現を豊かにし、書き表し方を学ぶ。

ウ 読み合いで学んだ表現の良さと内容の良さ

1時間目から6時間目までは、日記の読み合いを行い、7時間目は、「昼休み」のことについての作文を書いた。読み合いに使った日記の内容は、表2に示すように家族に関すること、友達に関すること、生き物に関すること、手伝いに関すること、自分の行動に関する事など多岐にわたることを考えて選んだ。

表2 読み合いに使った日記の題名と日記の良さ

時数	表現の良さ	内容の良さ	日記の題名
1/7	心に残ったことを選んで書く 思った事・考えた事を書く	家族の健康を心配する優しさ 最後まで算数の学習に取り組む粘り強さ	「Nちゃんのこと」 「二等辺三角形がうまくかけなかったこと」
2/7	五感を働かせて書く	何事にもへこたれない明るさ 動物思いの優しさ	「いたたたた」 「のらねこの子ねこのこと」
3/7	時間的経過が伝わる文を書く	どきどきした気持ちを素直に表している良さ	「I病院のネプライザ - できるしいよ」
4/7	様子を表す言葉を使って書く	友達の痛みを感じ取れる優しさ 弟の世話を懸命にし姉としての責任を果たす良さ	「Aちゃん学校に来て」 「こまった弟」
5/7	書き出しの工夫と終末の文の工夫	自分の本音を素直に表した良さ お米洗いの手伝いを生き生きとしている良さ	「頭がずきずきいたい」 「お米あらい」
6/7	気持ちが伝わる言葉に目を向ける	喜びを素直に表している良さ 自分の行動を振り返り、それを考えながらつづる良さ	「3メートル40センチとべた」 「いでー」「けが」

エ 検証授業 (1/7時間目の授業の実際)

読み合いの実際 (R児の日記の付け加え)

検証授業では、R児とM児の日記の読み合いをした。R児の日記の良いところ見付けをした後、「Rさんの日記を読んで、R児に聞きたいことはありますか。」と尋ね、R児に聞きたいことを発表させた。そして、それを基に、R児の日記に付け加えをした。これにより、分かりやすい文章を書くには、どのようなことを書けば良いのか学習することができた。しかし、付け加えたり削除したり、訂正したりすることは、作者にとってあまり嬉しいことではない。

だから、慎重な指導が必要である。R児の場合、表3のような本人が主体性をもった共同推敲は、かえって本人の喜びにつながった。R児は、書くことを厭わない児童であったが、この後ますます日記を書くことに意欲を見せ、長く詳しい日記を書いた。

表3 R児の日記の読み合い

T	Rさんの日記を読んで、聞いてみたいことはありませんか。
C1	「Nちゃん、ねつ下がんしゃった。」と誰に聞いたのですか。
R	お母さんに聞きました。
T	それを書いたらもっといい日記になりますね。
C2	聞いたらお母さんは何と言ったのですか。
R	「まだ少し熱のあんしゃあよ。」と言われました。
T	では、今のを付け加えて『Nちゃん、熱下がんしゃった』と何回もお母さんに聞きました。お母さんは『まだ少し熱のあんしゃあよ。』と言いました。」と書いたらもっと分かりやすい日記になりますね。

オ 検証授業 (2/7時間目の授業の実際)

読み合いの実際 (K児の日記の良いところ見付け)

検証授業で読み合った日記は、新しい靴を買ってもらい嬉しくて、靴を履いたまま階段を下り、階段から落ちたことを書いた、明るい性格のK児らしいものであった。子どもたちは、このような明るい内容の日記を読み合うのが大好きで、共通体験を話し合い、楽しい雰囲気の中で学習が進んだ。(表4)

K児の日記の読み合いの中で、題名の付け方のうまさ、五感を使って書き表した良さ(会話文や聞こえた音を書く)などについて、意見が出された。このように表現の良さを見付け合う中で優れた表現方法を学ぶことができた。また、K児は、たくさんの友達に良さ見付けをしてもらった喜びを素直に表現し、その後、日記を書くことや読み合うことに意欲を見せた。

表4 K児の日記の読み合い

T	Kさんの日記で良いと思うところを発表しましょう。
C1	「いたたたた」という題名の付け方がいいと思います。
C2	「なんしおうとね」とおばあちゃんが言った通りに書いているところがいいと思いました。
C3	「ズドドドドーン」と聞こえた音を書いているところがいいと思いました。
T	おばあちゃんが言ったことや階段から落ちた音は、何を働かせて書いていますか。 (児童が「耳」と口々に言う。)
T	そうね、耳を働かせて書いていますね。日記を書く時には、耳の他に、目、鼻、口、皮膚の5つを働かせて書きましょう。この5つを「五感」と言います。

カ 検証授業 (6/7時間目の授業の実際)

表5 D児の日記の読み合い

読み合いの実際(D児の日記の共通体験の話合い)

検証授業では、共通体験を話し合う際、Dさんの喜びを共有させるとともに、内容と結びついた表現の良さ(「なんと・・・」)に気付かせた。他の児童の共通体験を引き出し、共感し合うことにより、みんなで読み合う楽しさを味わった。この楽しさが、次の活動の原動力となっていく。また、表5の下線部の発言のように、日記を書く意義についても、折に触れ伝えることにより、日記を書く意義を再認識させ、書く意欲を高めさせた。

T そうね、「なんと3メートル40センチメートルもとびました。」というところの「なんと」にDさんの嬉しさがよく表れているね。みんなも「なんと・・・」と嬉しかったことはありませんでしたか。  
 C ぼくは、25メートル泳げなかったので、お父さんとプールに練習をしに行きました。ずっと、泳げなかったけれども、25メートル泳げた時、とっても嬉しかったです。  
 T 泳げて、本当に良かったね。そんな時に「なんと25メートルも泳げました。」と書いたらいいね。このように「なんと・・・」と言うくらいに嬉しいことは、是非日記に書き残しておきましょう。入学式のように大事な日は、記念写真を撮りますね。その記念写真と同じように、嬉しいことがあった日は、是非そのことを記念に日記に書き残しておくといいですね。

(6) 検証授業全体の考察

ア 児童の意識の変容

日記の読み合いについては、授業前は、2人(8%)の児童が、少し嫌いだと答え、6人(24%)の児童が嫌いだと答えた。授業後は、17人(68%)の児童が、好きと答え、8人(32%)の児童が少し好きと答えた。少し嫌い、嫌いを選んだ児童は、0人であった。好きな理由は、「書き方の良さが分かるから」という文章表現力にかかわるもの、「友達のことが分かるから」「友達のいいところを見付けられるから」「みんなで一緒に読むのが楽しいから」といった友達とのかかわりに関するもの、「友達が、すごいことをしたり、考えたりして、こんなことをすればいいんだと分かるから」といった物の見方・考え方にかかわるものであった。この児童の意識の変容からも、日記の読み合いは、学習してみてその良さが実感できる学習であると言えるであろう。

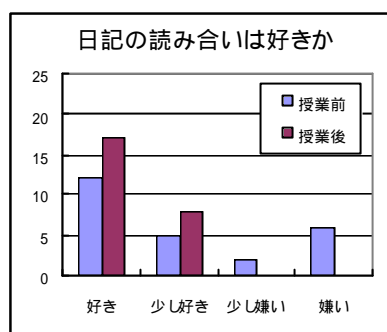


図3 日記の読み合いについての調査

作文を書くことについての意識調査では、作文を書くのが好きな児童は、10人(40%)から13人(52%)へと増え、反対に作文を書くのが嫌いな児童は、9人(36%)から2人(8%)に減った。A児は、作文が好きな理由として、「ぼくは、前は作文を書くのがきらいだったのが、今はすきになった。いろいろ書けるようになったからすきをえらびました。」と書いていた。B児は、「作文は、さいしょはきらいだったけど(日記の読み合いの授業が)楽しかったからすき。」と理由を書いていた。これは、「日記を文章表現の入り口ととらえ、日記指導を通して、作文も意欲的につ

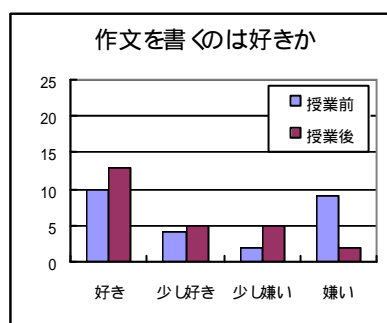


図4 作文を書くことについての調査

づる子どもに育てたい」という願いにかなったものと思われる。子どもたちは、日記の学習を通して、書く喜び、書いて伝える喜びを感じることができ、作文に対する抵抗を小さくすることができたと言える。

イ 文章表現力の変容(抽出児を通して、文章表現の変容を調べた。)

M児は、検証授業前の作文は170字書き、検証授業後の作文は1071字書いた。M児は、検証授業前は書く意欲が低く、それが字数にも表れていた。しかし、4時間目にM児の日記「Aちゃん学校に来て」の読み合いをした後、その意欲が増し、検証授業後の作文も意欲的に書きつづることができた。文章の長短はもちろんのこと、終末の文(そして、わたしは「どうしたとね?」と言いながら教室にもどりました。)にM児の成長の跡が見られる。検証授業前の作文は登場人物がなく、友達とのかかわりが書かれていなかった。し

しかし、検証授業後の作文は、友達にもこだわりをもって生き生きとつづられていて、友達に対する思いが繰り返し気持ちを込めて書かれているのが伝わってくる。このことが、会話文(会話文の数も検証授業前は0が検証授業後は6に増加)や文体「～かなあ」にも表れている。このように友達に寄り添って書いた結果、自分の思いを丹念につづることができ、作文が長くなったと考えられる。

表6 M児が検証授業後に書いた作文の一部

少したって、Rちゃんがないいたので、わたしは、どうしたのかなあと思ったから、  
「どがんとしたと、だいかんか言んしゃった？」  
と、言っても何も言ってくれなかったの、なんしんしゃったとかなあと思っていたら、だれかわすれたけど  
「Rちゃん、まだ、けつとんしゃれんと。」  
と、教えてくれました。だから、  
「されんやったけんなきおうと？」  
と聞いたけど、また、何も言ってくれませんでした。何も言ってくれないので、本当にどうしたのかなあと思いました。(中略)  
Rちゃんは、そうじのチャイムがなっている時も、ないいたので、よっぽどかなしかつたんだなあと思いました。そして、わたしは、  
「どうしたとね？」  
と言いながら教室にもどりました。

## 6 研究のまとめと今後の課題

### (1) 研究のまとめ

#### ア 学習意欲の高まり

日記の読み合いを通して、友達のことを知る喜びや、自分のことを知ってもらう喜びを感じ取ることができた。これが、自分のことをもっと知ってもらうために書きたい、友達のことをもっとよく知るために読み合いたいという意欲につながっていった。また、共通体験を話し合ったり友達の良さを見付け合ったりする日記の読み合いを通して、喜びや悲しみなどを共感し合うことや共に学び合う喜びを感じることができた。そして、日記の書き手は、書いて良かったという書く喜びを味わい、読み手は、読み合う充実感を感じることができた。

#### イ 文章表現力の高まり

友達の日記の表現の良さを学ぶことにより、書く技術が向上した。共通体験を話し合うことで、書く題材が広がった。また、書かれたことの内容の良さに触れることで、物の見方・考え方が深まり、周りの人たちとのかわりや周りの様子が詳しく書けるようになった。

#### ウ 物の見方・考え方の高まり

友達の日記を読み合うことにより、友達の物の見方・考え方の良さも学ぶことができた。今まで気付かなかった生活を自覚し、心を動かすことの大切さを知り、生き生きとした目を身の周りに向けてようになってきた。また、書き手は、読み手に良さを認められたり励まされたりして、それを伸ばしていこうとする自覚をもつようになってきた。

#### エ 心の通い合うコミュニケーションの高まり

読み合いを通して、今まで知らなかった友達の新たな面を知ることができ、児童相互の理解が深まった。

### (2) 今後の課題

#### ア 年間を見通した日記指導計画の作成

#### イ 評価の視点及び評価の規準の具体化

#### ウ より効果的な読み合いの在り方についての検討

#### エ 教師の作文を見る目を高める研修

## 引用文献

- (1) 菅原 稔 「適切に書くことによって育成される文章表現力」『小学校国語科教育実践講座 6』  
2000年 ニチブン p201

## 参考文献

- ・ 文部省 『小学校学習指導要領解説 国語編』 1998年 東洋館出版社
- ・ 亀村 五郎 『日記指導』 1971年 百合出版株式会社